

行 程 表

2019年5月26日(日)

稲むらの火の館 濱口梧陵記念館・津波防災教育センター

1820年(文政3年)、「稲むらの火」で知られる濱口梧陵は、紀州広村(現在の広川町)で生まれました。安政の大地震津波時、その命の火で多くの村人を救った彼の功績は、現代に通じる津波防災の象徴として広く語り継がれています。



濱口梧陵さんの生家で、生い立ちから晩年までの足跡や、人柄を感じさせるエピソードに出会えるよ。



人命尊重の精神をふまえ、来たるべき津波災害から大切な生命や暮らしを守ることを学びます。



3千平方メートルの池の周りを取り囲むように、松や梅、つつじなどの植え込みと季節の花々、巨岩庭石を配した1万平方メートルの池泉回遊式庭園が広がります。春には桜が美しく咲き誇り、5月になると池の上が藤棚のカーテンで華やかに彩られたかと思えば、つつじやさつきも次々と開花。6月から7月にかけては色とりどりの紫陽花が、秋になると紅葉が色づき、冬を越し春が近づくと紅梅白梅が可愛い花を咲かせますこれらの花や紅葉以外にも和歌山県のシンボルうばめがしの木や松などの常緑樹も植えられ、たとえどの季節に訪れても四季折々の風情を感じられるようになっています。池の周りに沿って作られた遊歩道を歩けば、季節ごとの表情をつぶさに感じながらじっくりと庭園を楽しんでいただくことができます。